

2014年7月1日発行

エコ・リサ通信 第 87 号

特定非営利活動法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会広報

【第 10 期 通常 社員 総会＝開催報告＝】

[来賓の豊田 雅裕課長の祝辞]



NPOとなられてから、ちょうど節目となる10年の通常総会開催を心からお祝い申し上げます。リサイクル率については上昇、最終処分量は一貫して減少しており、3Rの取組全体としては、比較的順調に推移しています。一方で、依然として大きな課題として残っているのが、家庭ごみの3分の1を占める生ごみの減量化です。そこで県では今年度から「バイオガス化発電」を推進して、事業化可能性調査の費用について補助をします。バイオガス化発電は、焼却ごみを減らし、未利用エネルギーを活用できる、非常に素晴らしい取組で、推進

来賓：埼玉県環境部資源循環 していきたくと考えています。

推進課 豊田 雅裕課長 結びになります。埼玉エコ・リサイクル連絡会の限りないご発展と、ご参会の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。

1 日時 平成26年5月15日(木) 午後1時30分から午後2時50分

2 場所 さいたま市浦和区北浦和 1-7-1

北浦和カルタスホール 第1会議室

3 社員総数 80名

4 出席社員数 55名 内訳 本人出席 14名

書面表決者 41名

5 議題

第1号議案 平成25年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで) 事業報告承認の件

第2号議案 平成25年度活動計算書、財産目録及び貸借対照表承認の件

第3号議案 平成26年度役員選任の件

第4号議案 平成26年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで) 事業計画承認の件

第5号議案 平成26年度活動予算承認の件

6 議事の経過及び結果



石川 恵輪会長

(1) 理事の轟 涼氏が本日の社員総会は定足数を満たしており、成立している旨を述べて、開会を宣言した。

(2) 理事の轟 涼氏から議長の立候補を出席の個人正会員に求めましたが立候補者が無かったので、理事の土淵 昭氏を指名、議長の選任につき諮ったところ、賛成多数をもって理事の土淵 昭氏を議長に選任した。



(3) 議事録署名人選任の件

議事録署名人につき個人会員に立候補を求めましたが立候補者が無かったので、議長から本日出席の理事の石川恵輪氏及び理事の大前万寿美氏を指名し諮ったところ、賛成多数をもって同意がなされた。

また、議長は書記として出席会員から理事の原田 史氏を指名し了承を得た。

(4) 第1号議案 平成25年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)事業報告承認の件

議長は上記議案を上程し、平成25年度の事業の内容につき概要を専務理事の宮田尚美氏が説明して議決を求めたところ、賛成多数により原案どおり承認可決した。

(5) 第2号議案 平成25年度活動計算書、財産目録及び貸借対照表承認の件

議長は上記議案を上程し、活動計算書、財産目録及び貸借対照表の内容につき概要を理事の高橋茂仁氏が説明した。引き続き、監事の平田 繁氏より第1号議案および第2号議案についての監査を行った結果、事業活動・活動計算書が公正に処理されている旨、報告され議決を求めたところ、賛成多数により原案を承認可決した。

(6) 第3号議案 平成26年度役員選任の件

議長は上記議案を上程し、理事及び監事の全員が本通常社員総会の終了をもって任期が満了するので、理事1名より辞任届を受理した説明の後、改めて残りの理事11名及び監事2名の選任を継続したい旨を述べ、原案の下記理事11名及び監事2名の候補者につき議決を求めたところ、賛成多数により原案どおり承認可決し、選任された理事及び監事は、その場で、就任を承諾した。

直ちに別会場において第2回理事会を開き、役員互選を行い会長には石川恵輪氏が就任する事が専務理事の宮田尚美氏より報告された。

記

理事	石川恵輪(再任)	理事	大前万寿美(再任)
理事	上領園子(再任)	理事	齊藤勉(再任)
理事	高木康夫(再任)	理事	高橋茂仁(再任)
理事	土淵昭(再任)	理事	轟涼(再任)
理事	中澤啓子(再任)	理事	原田史(再任)
理事	宮田尚美(再任)	監事	島田憲一(再任)
監事	平田繁(再任)		

(7) 第4号議案 平成26年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)事業計画承認の件

議長は上記議案を上程し、平成26年度事業計画の概要を専務理事宮田尚美氏が説明して議決を求めたところ、賛成多数により原案どおり承認可決した。

(8) 第5号議案 平成26年度活動予算承認の件

議長は上記議案を上程し、平成26年度活動予算の概要を理事の高橋茂仁氏が説明して議決を求めたところ、賛成多数により原案どおり承認可決した。

以上をもって本総会のすべての議案の審議が終了したので、議長は閉会を宣言した。上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人2名がこれに署名、押印する。

平成26年5月15日

平成26年度通常総会記念講演会 報告

一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究

埼玉県環境科学国際センター 自然循環・廃棄物担当 川寄 幹生氏

私が、一般廃棄物処理について考えていること

○一般廃棄物処理はサービスではあるが、もう少しビジネスライクにできないか。

(元々サービスなのであるから、地域へのサービス、地域の活性化(廃棄物処理業の活性化や廃棄物処理をサービスで行うことによる地元企業のサポート)を目指す必要がある。廃棄物処理には税金を使わねばならないので、廃棄物処理を通じた地域の活性化のために税金は使うべき)

○ごみ処理における現状の課題は？

・ごみは減少しているが…(ごみ処理は戦国時代の名残(他国のごみは拒否)はどうにかならないか)

・リサイクルは…のびが鈍化(ごみを生かす道は無いのか。使い道はまだあるのでは?)

このような考えの下、市町村の役に立つには何をなすべきか!を考えながら研究しています。

それでは、本日の本題について説明します。

なぜ、このような研究を立ち上げたのか

埼玉県内の一般廃棄物にかかわる状況として、●人口減少(埼玉県の人口は増加しているが、東京近郊だけであり、かなりの地域では人口減少が進んでいます)●高齢化社会(高齢化社会ではごみは減って行くことが予測されます。同時に、老人介護施設等のごみの内容は、これまでの経験から、おむつと残飯、段ボールなどであり、特におむつや残飯は水分を多く含むので焼却時のカロリーを下げます。)●処理施設の更新●ごみの適正処理等について、考えねばなりません。

先日の新聞記事によると、島根では、おむつを乾燥させて、圧縮・ペレット加工し、重量を減らすとともに燃料化しています。この他にも、北九州で使用済みおむつのリサイクルを行っています。使用済みおむつのリサイクルは今後の日本には、非常に重要だと思います。以前、事業系廃棄物対策で事業系可燃物を見ていたら、使用済みおむつはかなりの量があります。埼玉県内でもおむつのリサイクルを推進されるべきだと常々感じています。

市町村のごみ処理施設は建設したら30~40年間面倒を見る必要があります。一方、この長期間の間に人口は減少し、かつ高齢化するため歳入は徐々に減少します。また、施設は老朽化するため、保守費用も徐々に増加します。そのような場合にも、持ちこたえられる処理施設を今から考えることが必要です。



税理士法人 T&M ソリューション

毎月第2水曜日は「税の無料相談日」 お気軽にお問い合わせください!

お問合せ ☎ 03-5829-9664 E-mail info@tms.or.jp

不燃ごみ処理施設でピット横の破碎機投入コンベアーを見ると、家電類、ガラス陶磁器、タンス、玩具、日用品などほとんどのものはホームセンターで売られているものばかりです。このようなごみを見ていると、“ごみの適正処理”のためにやらねばならないことはまだたくさんあると思えました。

ごみについて考える時、皆さんもやっていると思いますが、環境省のごみ処理データの数値を見ると、数値を見ることも大切ですが、数値だけを見ていると数値の増減ばかり気にしてしまいます。数値の増減だけでなく、実際に捨てられているごみの内容を見ることも大切です。データを解析すると共に多くの施設で搬入されるごみや処理方法を見ていると、適した分別、処理がなされているかがわかるようになってきます。



先進的な市町村では、食器のリユース、掃除機のホースのリサイクル、玩具のリユース、小型家電リサイクル法施行以前から銅製電子部品のリサイクルなど行っていました。これまでに見た施設の中で、非常に感心した取組を行っている施設がありました。

蓮田白岡環境センターは規定を作り、焼却施設で産廃を受け入れています。焼却処理は費用がかかるので、地域業者にとっては非常にありがたい取組だと思われます。また、非常に印象的だったのは蓮田サービスエリアのごみはしっかり分別されていました。これまでの経験から、サービスエリアのごみは分別されておらず、市町村の頭を悩ませている問題と認識していました。担当者に聞いてみると、現場に行き分別方法を指導したとのことでした。そのような、きめ細かなサービスが行政には必要だと思われます。

飯能市の施設も、先進的な施設でした。現在は小型家電リサイクル法が施行されているので、多くの自治体が小型家電の回収に取り組んでいますが、飯能市は以前から取り組んでおり、小型家電を分解し、より収益が得られる状態にして売却していました。その他にも埼玉西部環境保全組合の川角リサイクルプラザは、食器類のリサイクルや掃除機ホースのリサイクルまで行っていました。秩父広域市町村圏組合や八潮市は産廃業者のごとく不燃ごみを分別していました。それらの施設における共通点としては、シルバー等の委託作業員を効果的かつ効率的に使っている点です。搬入車両が頻繁に来る時間帯は決まっているので、手が空く時間に分解・選別などの作業を実施していました。このように、市町村の取組には非常に差があります。担当者に依存することは否めませんが、取組に差がある実態がわかりました。

一方、民間廃棄物処理業者は手選別・機械選別でできる限りリサイクルしています。廃プラスチック類でも可能な限り手選別し、量を確保し、質を整え、かつ、処理ルートを開拓できれば有価物として売却可能になります。ここが、民間の産廃業者と行政との違いです。各自治体の施設を見ていると、人が少ないことは否めません。職員が数名しかいない施設もあります

(委託された作業員はいます)。そのような施設の担当者に、処理ルートを開拓せよと言うことは無理があります。そのような面において、協力できたらよいとも考えました。

このような現状があり、かつ、これまでに取り組んできた建設廃棄物とある意味同様な廃棄物(混合不燃固体廃棄物)である不燃ごみについて、何かできないかと思ひ不燃ごみについての研究を行うことにしました。

一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究

埼玉県内の粗大ごみ処理にかかわる状況

- ・不燃ごみとは？資源、可燃、危険・有害、粗大を除いたものであり、市町村により収集品目に差がある。その差は、所有している焼却施設に依存する場合が多い。
- ・不燃・粗大ごみ搬入量は、総搬入量のわずか6%、約13万トンである。相対的に可燃ごみと比べて少ないため、あまり、削減対策が講じられてこなかった。
- ・不燃・粗大ごみは処理された後、搬入量の50%が焼却処理、23%が埋め立て処分される。
- ・焼却灰の資源化は進んでいるが、不燃・粗大ごみの資源化は10年間ほとんど進展していない。

生活系不燃・粗大ごみ排出量の比較

県民一人当たり年間246(kg/人・年)の生活系ごみに対し、生活系不燃ごみ13.1(kg/人・年)、粗大ごみ5.0(kg/人・年)です(平成23年度一般廃棄物処理実態調査)。市町村別にみると不燃ごみ搬入量の割合が10%を超える市町村が4件あり、県平均と倍以上の差があります。不燃ごみの搬入量に影響を与える収集品目について考察すると、不燃ごみ搬入量の割合が高い行田市や羽生市はプラスチック類を不燃物として収集していることがわかります。逆に、不燃ごみ搬入量の割合が比較的低い市町村、上尾市、桶川市、蓮田市等は“不燃ごみ”という分類ではなく、ガラス類、金属、その他ごみとして回収していました。

粗大ごみ処理施設に関する情報

なぜか？処理方法(破碎選別方法)はほとんど差がない。篩の目開きに差がある。

破碎不適物の除去 ⇨ 破碎 ⇨ 磁力選別 ⇨ 粒径分離 ⇨

①細粒分：不燃物(不燃残渣)として埋め立て処理。

②粗粒分：(アルミ選別機で非鉄類を回収したのち)可燃物として焼却処理
不燃残渣は見た目(多色か否か、プラスチック類含有量に依存)に異なる。

不燃残渣の主成分はプラスチック類とガラス陶磁器である。

不燃残渣は可燃物がある程度含んでいる。

再資源化方法の検討

—比重差選別機による不燃残渣の処理実験—

結果は、ガラス陶磁器くず、プラスチック類は90%以上の純度で効果的な分別が可能ということがわかりました。処理前の不燃残渣のカロリーは10MJ/kg程度、木くずよりも若干低い値ですが、乾式比重差選別機によってプラスチック類や軽量物をきちんと分別したら30MJ/kg程度、石炭と同等のカロリーに精製することができます。この程度に選別できれば、サーマルリサイクル燃料としての使用が期待できます。ガラス・陶磁器は人工砂に加工し、使用されています。



街を遊ぶ！食べる！極める！ www.townnavi.info/saitama

司法書士竹内啓修事務所

お問合せ ☎048-963-6055 不動産・商業登記全般

不燃残渣の資源化

- ・主成分であるプラスチック類とガラス陶磁器片は乾式比重差選別機を適用することによって、高い純度で分離できる。
- ・各成分のマテリアルリサイクルをする場合、破碎選別前に分けることが必要。
- ・不燃残渣の資源化先として、県内ではセメント工場が有望（現在実証へ向け活動中です）試算では、年間 8000 トンぐらいは処理可能。
- ・乾式比重差選別機を市町村に設置すると、災害時の廃棄物処理に有効だと思われます。

小型家電リサイクル

- ・不燃ごみ中の廃電化製品は、不燃ごみの約 20%であり、住民一人当たり年間 2 キログラムの廃電化製品を廃棄していることが推測された。
- ・使用済み電子機器の分類から、日常生活に密着している調理関連、掃除機、扇風機、暖房機器などの電子機器の廃棄量が多い。
- ・使用済み電子機器の抜き取りには、作業員の他、一時保管場所の確保も重要である。
- ・不燃ごみの破碎選別試験から、①使用済み電子機器総重量の 7%の金属類及び②9%の電子基板類が焼却または埋め立て処理されている。

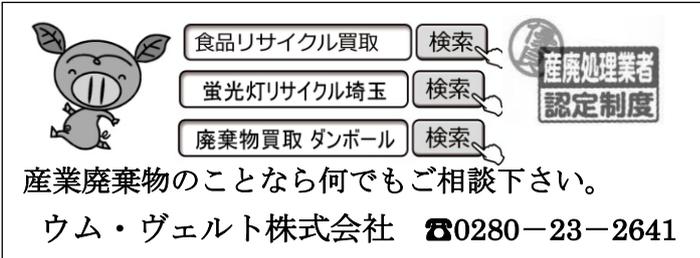
今後の課題

- 不燃ごみ処理の改善・資源化を実行し、循環型社会を構築する。
- 化粧品・医薬品の分類は不燃ごみで良いのか。未使用や使用済みの医薬品や化粧品が不燃ごみには混入している。これらの化学薬品は、埋立地に影響するののかについて調査研究を行う。

記念講演の全文はエコ・リサホームページをご覧ください。



ゴトグループ
快適な環境づくりのお手伝い。
村岡営業本部 ☎048-537-0555
ゴトグループ <http://www.510goto.co.jp>



 食品リサイクル買取
蛍光灯リサイクル埼玉
廃棄物買取 ダンボール
 産業処理業者
認定制度
産業廃棄物のことなら何でもご相談下さい。
ウム・ヴェルト株式会社 ☎0280-23-2641



一般
社団法人 **繊維リサイクル協会** <http://tera-jpn.or.jp/index.html>



読売旅行 読売旅行「あなたの街から」いい旅 いつも これからも
さいたま営業所 ☎048-640-4343 FAX 048-644-7674

エコリサの環境出前講座のご案内

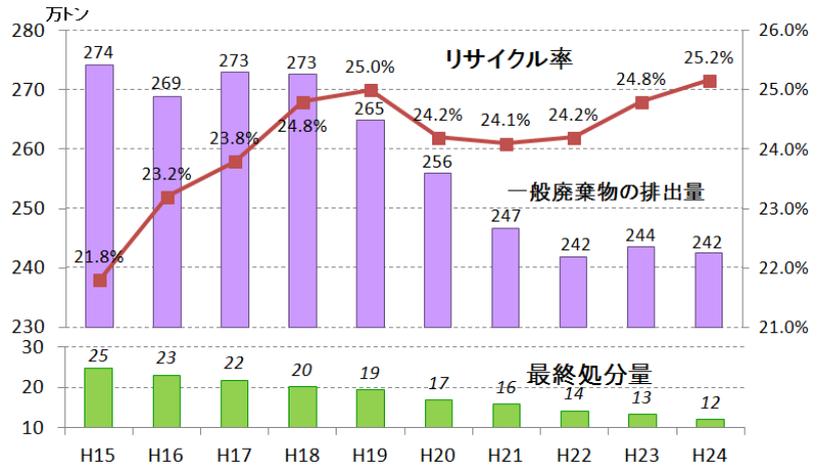
エコ・リサでは講座や学習会の企画から講師派遣までをトータルで提案しています。子どもから大人まで関心度別に選べます。複数のテーマを組み合わせることも可能です。詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

環境出前講座案内・講師紹介 <http://www.townnavi.info/eco-risa/con02/kouza.html>

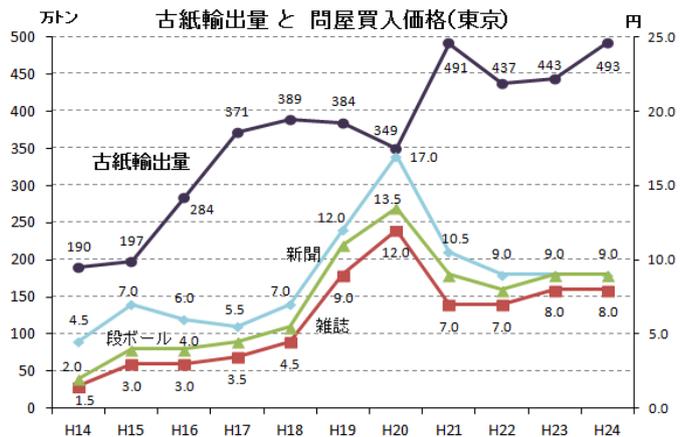
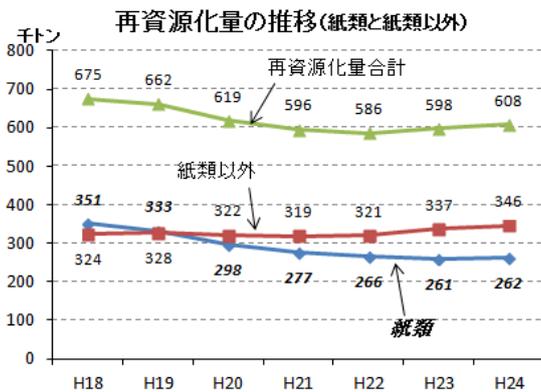
埼玉県環境部資源循環推進課コーナー

伸び悩むリサイクル率。その原因は？

県では5月23日に平成24年度の一般廃棄物の排出量等を発表しました。排出量や最終処分量が順調に減少している一方で、リサイクル率は19年度に25.0%まで上昇して以降25%前後で推移しており、伸び悩んでいます。実生活においては分別収集が定着している印象がありますが、なぜ数値としては伸びていないのでしょうか？



再資源化量の内訳を見てみると約半分が紙類です。近年は焼却灰のスラグ化・セメント化や、剪定枝のリサイクルなどが進み、紙類以外の再資源化量は増加していますが、紙類の再資源化量は平成18年度からの6年間で約25%減少しており、再資源化量合計を押し下げています。ではなぜ紙類の再資源化量が減少しているのでしょうか？そのカギは、古紙の輸出量にあります。



古紙の輸出量は増加傾向にあり、この10年で約2.5倍に増えています。古紙の需給が逼迫した平成20年には、輸出量が減少し、古紙価格が高騰しています。これだけ価格が上がれば、もはや古紙はごみではなく立派な資源です。行政には出さず自主回収したり、商売として回収したりする方が増えていますが、これらの回収量は行政では把握できません。ほぼ100%リサイクルされているのにも関わらず、把握できない自主回収分などが増加したことが、統計上のリサイクル率が伸び悩んでいる一番の原因です。仮に24年度の紙類の再資源化量が18年度と同量だったとすると、24年度のリサイクル率は27.8%にまで上昇していたことになります。



(幸手市の警告文)

ところで、近年はごみステーションに排出された古紙を持ち去る業者が問題になっています。その対策として県内の41市町・4組合（平成25年3月現在）が資源ごみの持ち去りを禁止する趣旨の条例を制定しています。また、狭山市や幸手市などでは、市民が古紙回収に出す際に持ち去り禁止の警告文を貼るように案内しています。実際に持ち去り被害に遭っている自治体では、古紙にGPSを忍びこませ、追跡調査している例もあります。皆さん対応に苦慮しているようです。

エコ・リサ学習会のお知らせ

地域の環境団体から学ぶ!! 第2弾 ～市民が運営するリサイクルプラザ～

狭山市

日時・2014年8月21日(木) 13:00～15:30(受付12:45～)

場所・狭山市 リサイクルプラザ 資料代・会員 300円 非会員 500円

予 定 表

①リサイクルプラザ見学

②「さやま環境市民ネットワークの活動状況」

講師：毛塚宏氏(NPO 法人さやま環境市民ネットワーク副代表理事)

③「リサイクルプラザの受託事業の運営状況」

講師：児玉靖氏(NPO 法人さやま環境市民ネットワーク理事)

遠藤日出子氏(NPO 法人さやま環境市民ネットワーク理事)

☆11:30～12:00 工場棟見学(希望者は申込みに記載)(昼食は各自持参してください)

※詳細は、同封のチラシをご覧ください

エコ・リサ研修見学会のお知らせ

今回のエコ・リサ研修見学会は、例年の8月開催から、10月開催となります!



開催日：平成26年10月2日(木)

見学先：大田区城南島スーパーエコタウン

① (株)アルファ(食品リサイクル)

② バイオエナジー(株)(生ごみをバイオガス発電と都市ガスに変える)

※エコ・リサ会員の方にエコ・リサ通信の今後の配信方法についてお願い※

事務作業、省コストの点からmail配信への移行をすすめております。

メール配信希望の方はホームページお問い合わせから「エコ・リサ通信mail配信希望」として氏名・アドレスの連絡をお願いします。

編集後記：バイオ発電！実現したらすばらしい。燃料電池自動車も、再生可能エネルギーも、まだまだ普及するには高すぎる！！でも、日本の技術力で乗り越えられると信じたい。そして私たちの活動の一步一步で未来が明るくなるように、エコ・リサ学習会で共に学びましょう！！研修見学会も、話題のバイオガス発電の現状を知る貴重な機会です。ぜひご参加ください。

轟 涼